

ぎょうだ ふるさと 検定

残念不正解です！

問題

N06. 行田市では、江戸時代から足袋の生産が始まりました。では、足袋づくりが地場産業として発展した主な理由は何でしょう？

- ア. 原料の入手が容易だったため
- イ. 足袋職人が移住してきたから
- ウ. 殿様が足袋を作って無料で配ったから

正解 ア

行田市では、江戸時代前期から足袋づくりが始まりました。周辺地域では綿の栽培や、藍染めの綿織物「青縞(あおじま)」の生産が盛んだったため、足袋の原料を地元で調達しやすかったのです。これが、足袋づくりが地場産業として根付いた大きな理由です。

ちなみに「青縞」とは、糸を藍で染めてから織ることで、縞模様のような風合いが生まれる綿織物のこと。特に埼玉県北部(武州)で盛んに作られていました。

